



## [ 第1分科会 ]



結核研究所副所長  
座長 石川 信克

### 21世紀の結核対策への提言

平成11年の結核新登録患者数及び罹患率は再び増加を示し、わが国の結核は3年連続して増加したことになる。これには一昨年7月に出された「緊急事態宣言」による社会的関心の増加や非定型抗酸菌陽性者の報告などの影響も否定できない。しかしそれらの影響を除外しても、罹患率の減少鈍化傾向ないし微増には変わりはない。特に青年・壮年層での微増、塗抹陽性罹患率の横這い状態は深刻な状況である。人口の高齢化という背景はやむを得ないとしても、都市化の進行による感染の増加、貧困層の増大など結核疫学が複雑化しつつあることは事実である。一方、地方分権、保健所の変革が進む中、感染症対策の一環としての結核対策は、従来の慣習にとらわれない単純化・焦点化と地域にあった多様化が必然となってきている。今回の分科会は、昨年に引き続き国や県が取り組むべき新しい方向を現場から発言

する試みを行う。シンポジストは、保健医療の第一線で活躍されている方々で、それぞれの現場での取り組みを発表していただき、議論を通して課題を深めてゆきたい。まず開催県から、石本寛子氏（徳島県穴吹保健所長）は「徳島県の結核の現状と課題 - 結核対策パッケージによる対策強化」を報告される。次に加藤達雄氏（国立療養所岐阜病院呼吸器科医長）は発見の遅れや高危険群を中心に「患者発見における課題」について、楠瀬美枝氏（高知市保健所地域保健課結核感染症対策室長）は、集団感染事例を用いて「結核の危機管理 - 集団感染事例の分析より」について、原田久氏（神奈川県秦野保健所）は「医療機関と保健所との連携の試み」について、撫井賀代氏（大阪市保健所保健副主監）は、大阪市の経験より患者管理の「新しい対策の試み」について述べられる予定である。

助言者として、増山英則氏（結核予防会第一健康相談所診療部長）には結核専門家の立場から、中谷比呂樹氏（厚生労働省健康局結核感染症課長）には国の保健行政の立場から、それぞれ助言やコメントをいただき、全体の議論を盛り上げていただく。

会場からのご意見も加え、この会の討議が新世紀の対策への新しい提言を展開することができることを期待したい。

## [ 第2分科会 ]



徳島県保健福祉部  
健康増進課  
健康増進対策監  
座長 中川洋一

### いま、この時代（とき）を

平成12年10月、WHOは西太平洋地域のポリオ根絶を宣言しました。一方、結核の根絶は、達成すべき大きな課題として21世紀に引き継がれました。今、改めて結核の問題を再認識し、結核対策に取り組んでいくことが求められています。

そこで、第2分科会では、「いま、この時代（とき）を」をテーマとして、会場の皆様に国内外の結核の問題を身近なものとして捉えていただき、結核についての正しい理解を深め、結核予防の意識を高めていただけるよう、一緒に考えていきたいと思ひます。

まず、はじめに「若者は変わった 結核も変わった」と題し、結核予防会の島尾忠男顧問から若者の結核を取り巻く諸問題について、わかりやすく解説をいただ

きます。

続いて、「さまざまな国の結核対策」と題し、結核研究所の森亨所長から各国の結核対策について御紹介いただきます。

さらに、県結核予防婦人団体連合会、徳島ミュージカル劇団「ぴいたあぱん」、県保健婦の皆様による結核をテーマにしたミュージカル「いま、この時代（とき）を」を上演します。52回を迎える本大会の中でも、ミュージカルは初めての試みではありますが、関係者の御指導・御協力をいただき、厳しい練習を重ねた結果、皆様方に満足していただける内容に仕上がりましたので、十分楽しんでいただきたいと思います。

21世紀を迎え、初めての結核予防全国大会であり、また結核予防法制定50周年という記念すべき年でもあります。結核の克服に向けて新たなメッセージをこの徳島県から会場の皆様とともに発信したいと考えておりますので、どうぞよろしくお祈りします。